

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人真正寺		
事業所名	グループホームハーモニー(1F ソプラノ)		
所在地	小樽市長橋 2-19-28		
自己評価作成日	平成22年8月2日	評価結果市町村受理日	平成22年9月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度より、運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加をお願いし、従来通りのペースで会議を開催させて頂いています。  
また、ホームでの看取りに関しても、ご家族のご要望のもと2名の入居者の方が最期までホームで過ごされました。病院とは違ったグループホームならではの終末期ケアを提供させていただき、ご家族にもご満足いただきました。  
内・外部研修においても、昨年同様道の社会福祉協議会主催の研修や、市のグループホーム相互訪問などに積極的に参加させていただき、職員のスキルアップ・他職種との交流に努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000440&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000440&amp;SCD=320</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年9月2日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市の住宅地の高台にある3階建て3ユニットのグループホームで、デイサービスの建物が隣接しています。窓からは商店街などの町並みが望める見晴らしのよい環境です。3ユニットの管理者は、日常業務や介護サービス全般の改善に迅速かつ積極的に取り組んでおり、前回のサービス評価に対する改善や、苦情がある場合の素早い対応などの面で優れています。また、開設後、年数経過と共に介護度の高い利用者も増えていますが、通院や買い物、知人とのやりとりなど、日常生活の支援をきめ細かく行っており、看取りの経験も積んでいます。管理者を中心に各職員が理念を共有し、意見を出し合いながらサービスの改善に努めています。また、一人ひとりの状況に合わせた介護計画が作成され、モニタリングや各種の記録も整備されています。隣接するデイサービスや運営法人の協力も得られ、職員同士の連携もよく取れています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に向けて努力されている職員と、理念が共有されていないという職員とに分かれている。このことから理念についての認識不足がまだあると思われる。	理念の中に「地域の人との触れ合い」を盛り込んでいます。理念は新人研修で取り上げ、ホーム内の随所に掲示され共有化し、職員の理解を深めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年実施していた、日曜日の公園清掃について行われなくなっている。それ以外での町内会お手伝いなどは、行われているが、昨年と比べると少なくなってきた。	普段の買い物で商店の方々と交流があります。ホームや地域のお祭りに相互に参加しています。また、中学生の体験学習受け入れも行っています。	地域への参加協力がやや減少しているとのことなので、可能な範囲での参加と、さらに、ホームの持つ介護のノウハウや知識が地域の方々に還元されるような取り組み（車椅子昇降や認知症予防の講習など）を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会より、車いすへの移乗方法をお話してくれないかと、一度要請あるもその後進展ない。管理者3名ともにキャラバンメイトとして認知症についてお話しする準備はできているが、場が無い状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、地域包括支援センターの職員も参加され、2か月に1度行われている。推進委員の助言も頂いており、すぐに対応させて頂いているが、その数は少なく今後より多くの助言を頂けるよう努力していく必要がある。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、防災や外部評価、行事などのテーマで話し合っています。新たに地域包括支援センターの参加も得られ、地域住民、家族代表など幅広い意見が得られています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課・生活保護課など適宜訪問し、必要な時は協力していただけるよう良い関係を保てているとおもわれる。	市が主催する集団指導（研修会）に参加し、担当者といつでも相談できる関係を築いています。制度改正時は、市の担当者に確認し、解決しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止とともに、身体拘束廃止についての内部研修を行っており、以前よりもさらに職員も意識され、介護の実践につながっている。	身体拘束防止に関するマニュアルを整備し、勉強会で確認しています。玄関は夜間のみ施錠しており、各ユニットからエレベータへは施錠はなく、センサーでわかるようにしています。外出希望がある場合は職員が同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止とともに、虐待防止の内部研修を行っており、以前よりもさらに職員も意識され、介護の実践につながっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、制度自体はある程度把握しているものの、実際に必要な方に関して現在の提供は少ない。また、全職員に対しての説明を再度行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にご家族には重要事項・契約関係のお話をしている。不安・疑問点は入所初期にはあまりお話しできないが、徐々に聞き出すよう全職員が努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表者を配置。また、苦情対策委員会の設置、苦情箱の設置をしており、各々すぐに対応し公表している。	家族の来訪時や電話の際に意見を聞いています。重要事項説明書に第三者の苦情・相談窓口を明記しており、苦情とその対応結果を玄関の掲示板に掲示しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議以外に、施設全体の会議は行われていない。また、直接運営に関する方針は、代表者・管理者間の会議で決定しており、管理者により職員の意見を代弁しているとは言え、直接意見・提案を聞く機会を設けていく必要がある。	月1回、ユニット会議と全体会議を行い、職員間で意見交換をしています。管理者を中心に職員の意見や提案を迅速に反映しています。法人内の異動は必要最小限としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握、労働時間については管理者により把握・調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、各職員の適正・力量・就業年数に応じて研修内容を振り分けて行っている。また、内部研修についても適宜行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度よりの、市内グループホーム相互訪問に参加させていただき、職員同士の交流・見学を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の時点で、ご本人の要望を聞き出せるように努めている。また、入所してからも日々の会話の中で、全職員がご本人の安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学・契約の段階でご家族の要望をとらえ、適切に支援していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の段階で、当施設でのサービスが最善であるか管理者3名により検討されている。他のサービスが必要な場合は、その都度助言などさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者・各職員とおおむねそれぞれ良い関係を保っていると思われるが、支えあうまでに至っていない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族それぞれにおいて差はあるものの、ご本人との今まで通りの関係を保てるように支援している。また、介護に関しても協力的な家族が多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者の方のみ支援出来ている。レベル低下・高齢化に伴って、支援ができなくなっているのが現状である。	知人との関係が途切れないよう、知人の来訪を歓迎したり、手紙のやりとりができるよう支援しています。地域の馴染みの商店や美容院も継続利用しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者において、入居の段階でご本人の安心感を保てるように、他の入居者とのコミュニケーションを支援できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の段階で、必要であれば御相談にいつでもの旨をお話しさせて頂いている。契約終了後、こちらからのアプローチは行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員ともに、日常生活の中から希望・意向の把握に努めている。	日頃の仕草や行動から利用者の思いや意向を把握し、共有しています。フェイスシートに情報を蓄積し、情報を定期的に更新しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のお話の中から聞き取るよう努力されている。また、ご家族の方からの聞き取りも、各居室担当者により行われている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員ともに日常生活の中から、会話・表情・バイタルサイン等の情報により把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	若干遅れがちではあるが、その時々々の状態に応じた介護計画を作成している。	3ヵ月毎に定期的なモニタリングを行い、職員間で意見交換して計画作成しています。介護計画をもとに週間計画が作成され、日々の介護に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づくケアについては個別の記録に。また、それ以外は申し送りや日誌において職員間で共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにおいて出来る限り支援されていると思われるが、多機能とはいえない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接的に地域資源を活用できる方は少なく、出来る方は支援されている。その他出来ない方においては、間接的であるが職員・管理者による支援がされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の病気の症状・希望を勘案し、協力医療機関・馴染みの医療機関の双方を利用している。また、ご家族の意見も取り入れ、協力もしていただいている。	毎週、協力医療機関による往診があり、各ユニット、2週に一度受診しています。かかりつけ医の通院も支援しています。受診結果を適切に記録しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム勤務の看護師・協力医療機関の担当看護師と随時連絡を取り、適切に指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族を通して病院との連絡を図っている。また、早期退院に向けてホームの受け入れを整える準備をしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針をもとに、ホームでの最期を希望する入居者・家族の方においては、看取りを行っている。ホームでの看取りの利点・欠点もお話しさせて頂いている。	重度化した場合の看取りに関する指針を家族に説明し、同意書を交わしています。できるかぎりホームで過ごして頂く方針とし、看取りの経験も積んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム全職員において、普通救命講習を受講済みである。さらに今年度より、全職員再受講予定である。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度より、夜間を想定した避難訓練を消防指導のもと9月に行う予定である。	救急救命訓練は職員全員が受講しています。昼夜を想定した避難訓練を定期的に行う予定であり、地域との協力体制の整備を進めています。	町内の3つのグループホームが連携して災害時の地域との協力体制の整備を進めているところであり、その取り組みに期待します。また、昼夜を想定した避難訓練の定期的な実施も期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員それぞれ意識はしているが、忙しいと言葉掛けが悪くなったりしている。	利用者の誇りやプライバシーを尊重して普段の言葉掛けに気を配り、気付いた点に注意しあっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの希望が聞ける方には、出来る限り対応できていると思われる。希望の表出が困難な方に対し、希望表出・自己決定を促す場を増やしていきたい。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の高齢化・重度化に伴い、一人一人のペースでの生活は、かなり制限されている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみについては、おおむね支援されている。おしゃれについては、ご家族が外出着を買ってくることが多いので、希望に沿って対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力に応じて支援されているが、毎日とはいえない。	利用者は、職員と会話をしながら食事を楽しんでいます。利用者のできる範囲で調理や盛り付け、配膳、お菓子作りを手伝っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事については別にチェック表を用意しており、確認しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力・生活習慣に応じて、声かけや介助を支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用を減らすよう、トイレ誘導やポータブルトイレの使用にて工夫している。	利用者毎に排泄等を記録しパターンを把握して、自立に繋げています。利用者の能力に応じてオムツやポータブルトイレを利用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の服薬とともに、食事・おやつ・飲食物の毎日の工夫により、排便を促す努力をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の高齢化・重度化に伴い、職員の就業時間帯・人数が厚い時間に入浴を行っている。その都度入浴が必要な方に声掛けし、希望を確認している。	毎日、入浴可能で、週に2～3回を目安に午後を中心に利用者が入浴しています。利用者に応じて複数介助やシャワー浴、足浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力に応じて、休息できる時間を設けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員において、薬の目的、用法、用量、副作用を理解されていない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年中行事のほかに個別レクを毎年取り入れ、各入居者に合わせた気分転換を提供しているが、本年はほとんど行われていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は出来る限り希望に沿った外出を支援できるように努力されているが、病院受診など多くの弊害があり日程を代えさせて頂くことが多い。	日頃から散歩や買い物で商店街やスーパーに出かけており、花見や紅葉狩り、夏祭りなどの行事でも外出しています。通院も頻繁で、一人ひとりの希望での外出支援も行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力に応じて、お金を管理している。使う機会はあまりない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の力に応じて、支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りつけなど、たまに行われているが、もう少し頻繁に必要であると思われる。	共用空間は窓が多く、明るく快適です。食事スペース、ソファ、居室がバランスよく配置されています。壁には手作りの季節の装飾などが飾られています。温度や湿度、光や音も適切に調節されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては、食堂テーブルとTV前ソファのみ休める場であり、一人になる場合は居室にて過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で、ご自宅で使い慣れた家具を持ってきて頂けるようにお話している。また、ご本人の身体レベルの状態に応じて、その都度必要物品を確保している。	居室は利用者の馴染みの家具や生活用品が自由に持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁にも自由に写真や飾り物を掲示しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設当初から、手すりの設置など配慮されている。また、高齢化・重度化に伴い、安全が不足した際には、必要物品・介助用品を補充するなど工夫している。			